

中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。



“桑名方式インターンシップ” ～地域一体となった次世代の担い手育成～

自身で仕上げを行った製品を手にするデュアルシステム受講生の藤本君(左中央)と原島君(右中央)。両サイドはマルテ鋳器先輩社員の小島さん(左端)と加藤さん(右端)

1. はじめに

地場産業を担う人材は、少子高齢化による自然減と、大都市への若者の流出による社会減の2つの要因で顕著に不足しており、その確保が大きな課題となっている。このような中、インターンシップによる職業体験は、地場産業に対する若者の理解促進、職業意識の高揚につながるものと期待されるが、実際には、受け入れ企業探し、受け入れ企業側の環境整備等、様々な課題がある。

名古屋経済圏の吸引力が大きく、地場産業の担い手確保が課題となっている三重県桑名市エリアでは、独自の人材育成の取り組みが進められている。

2. 桑名市エリアにおける取り組み

(1) 鋳物の街 くわな



桑名駅前の看板

初代桑名藩主本多忠勝の命による鉄砲づくりが起源とも言われる桑名の鋳物産業は、鍋釜等の日用品から寺社の鳥居や梵鐘、ガス機器・建材等の業務用途まで幅広く発展してきた。一方、溶かした金属(湯)の温度管理や安全管理等、技術・ノウハウの継承が不可欠

であるが、安価な海外製品との競争に加え、高齢化や後継者不足等、産業を取り



七里の渡デザインのマンホール蓋 ☆

巻く環境は厳しさを増していた。



日本一の青銅製の鋳物鳥居(春日神社)

(2) 桑名方式インターンシップ

1996年、桑名工業高等学校(桑工高)から桑名商工会議所への「現場を見てみたい」という要望で実施した企業訪問をきっかけに、インターンシップの原型となる「産業現場実習」の取り組みが始まった。桑名商工会議所鋳物部会の会員事業所3社からスタートしたものづくりの専門的な現場体験は、職業体験として商業・金融・福祉などのサービス業にも拡大し、市内の普通科高校・中学にまで広がっている。

インターンシップの課題である、受け入れ企業の開拓と仲介役を商工会議所が担い、学校、企業と三者一体となって推進する取り組みは、「桑名方式インターンシップ」と呼ばれ、成功事例として全国に波及している。

(3) 桑工高におけるデュアルシステム



注湯の実習 ★

「地域と歩むものづくり」をキャッチフレーズとする桑工高では、2004年度より文部科学省の「専門高校等における『日本版デュアルシステム』推進事業」の指定を受け、商工会議所や地域企業と協力し「**桑名版デュアルシステム**」に取り組んでいる。このシステムは、参加を希望する生徒が、1年生で短期的な企業実習を体験し、2・3年生では年間を通じて週1日の実習を行うものである。

学校での専門的な学習に加え、**現場での継続的な労働体験**により、実践的な職業知識・技術とともに、プロ意識やチーム意識の醸成、世代間のコミュニケーション力を身につけることが期待される。来年度には、新たに生徒が自身のキャリアを探索する



仕上げ作業を行うデュアルシステム受講生

デュアルシステム：学術的教育と職業教育を同時に進めるドイツ発祥の人材育成システム。日本では、専門高校や職業訓練施設等での座学と、企業における実習を並行的に実施する職業訓練システムとして、厚生労働省と文部科学省が連携して実施。

コースを設け、さらなる進化を図る計画である。

3. 地域産業の活力維持に向けて

これらの地域一体となった人材育成の取り組みにより、桑工高では就職希望者のうち約7割が県内企業に就職し、受け入れ企業からも「現在の若者の一端を理解でき、採用の参考になる」



木曾三川と蛤をモチーフにした灯笼

「作業指導者の気配り向上」「作業指導者の声があがっており、今年度も82社で157名の生徒が現場実習を行っている。

地元での就職促進により、若者・企業双方に新たな気づき・アイデアが生まれるとともに、若者が地元へ愛着を持ち定住することで地域が活性化し、桑名がさらに住みよい街となることが期待される。



「くわな鋳物」ブランドの蚊やり器

文：三重担当 小島 琢也

取材協力：桑名商工会議所、桑名工業高等学校、(株)マルデ鋳器
写真提供：☆印：桑名市、★印：桑名工業高等学校

インターン・デュアルシステム受け入れ企業 マルデ鋳器 出口大介専務取締役からのコメント

- 今の生徒はスマホ世代。画面の中でボタンを押したら答えが出て来てしまうような時代環境の中で、ぜひこの現場体験を通じて、工程間のつながりを理解し、ものづくりとはどういうものかを学んでほしい。
- 生徒に対して、作業指示は出すが、手取り足取り指導しすぎないように気をつけている。最近の若者は周りの人とのコミュニケーションを避ける傾向が強く、仕事の内容だけでなく、ベテラン社員と進んでコミュニケーションを取り、自ら教わる姿勢を身につけてほしい。極端なことを言えば、自ら進んでコミュニケーションをとることを経験するだけでも、大きな意味があると考えている。
- 生徒を受け入れて嬉しかったことの一例として、工程のローテーション上、デュアルシステムでの就業曜日には見られなかった注湯作業を、わざわざ別の日の授業後に見学に来る程関心をもってくれた生徒もいた。
- デュアルシステムの受講生は、週1日の就業であるが、継続的に仕事を共にすることで、職場の一員となっている。そして、自分としても受け入れた生徒のことが気になり、桑工高まで足を運んで、彼らのその後の授業風景を見学させてもらったりもしている。
- 若者が入ることで明るくなるし、見られる側のベテラン社員の背筋が伸びる等、生徒を受け入れることは職場にとっても大変良い刺激になっている。

(株)マルデ鋳器 企業DATA

代表者：代表取締役 出口 博一 創業：1962年5月 従業員：15名

主要製品：業務用ガスコンロ・厨房部品および関連部品・美術工芸品 等

所在地：いなべ市員弁町西方538-2 TEL：0594-74-5613(代) FAX：0594-74-4839 URL：<http://marude-chuki.co.jp/>